

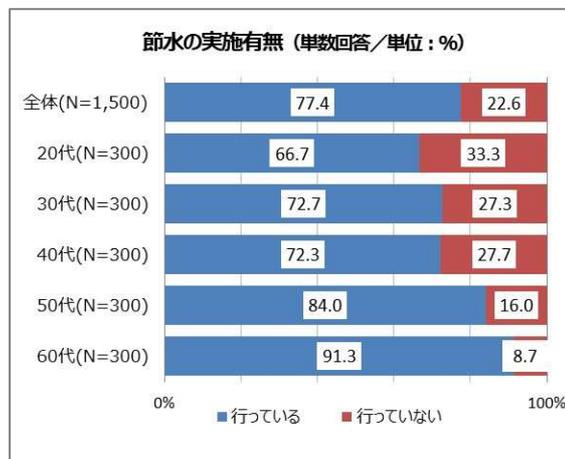
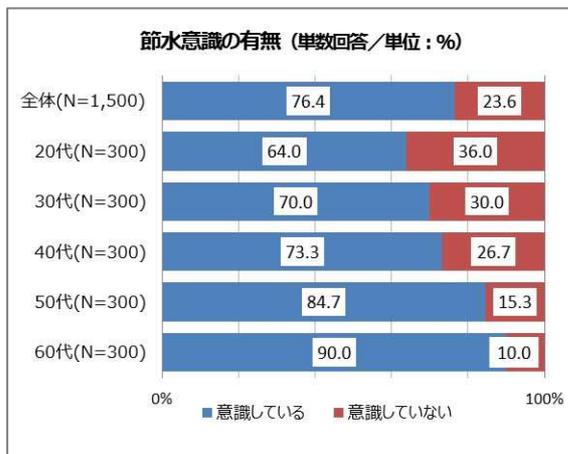
## 節水の意識と行動

### Q.日常生活で節水を意識しているか？（2択）

### Q.日常生活で節水を実施しているか？（2択）

#### ◇意識している人、行動している人、いずれも増加

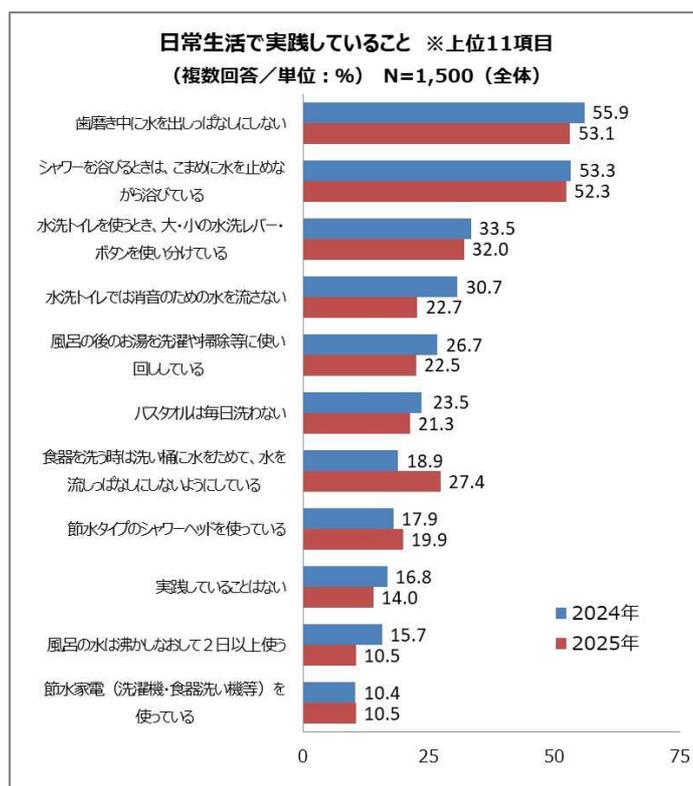
節水への意識と行動は、節水を「意識している」が76.4%、節水を「行っている」が77.4%となり、いずれも昨年から増加しました。年代別でみると、節水を「意識している」については、もともと9割超と高かった60代は横ばいも、他の年代はすべて昨年より増加。節水を「行っている」については、20代から60代までの全年代で増加しました。



### Q.日常生活で実践していることは？（14択+その他+実践していることはない）

#### ◇取り組み率がやや減少

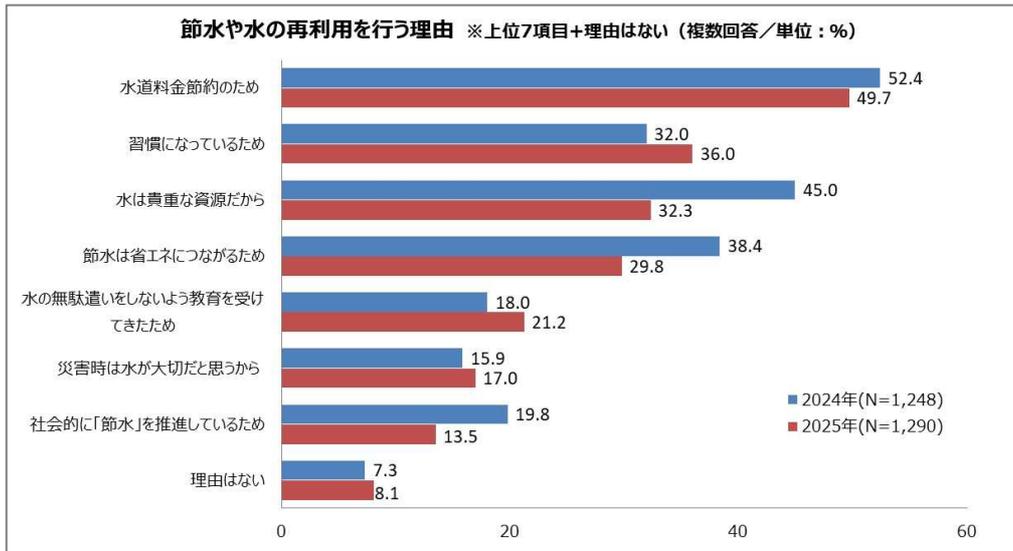
節水や水の再利用方法に関する項目を選択肢にあげ、日常生活で実践していることとして聞いたところ、1位「歯磨き中に水を出しっぱなしにしない」（53.1%）、2位「シャワーを浴びる時は、こまめに水を止めながら浴びている」（52.3%）、3位「水洗トイレを使う時、大・小の水洗レバー・ボタンを使い分けている」（32.0%）、4位「食器を洗う時は洗い桶に水をためて、水を流しっぱなしにしないようにしている」（27.4%）、5位「水洗トイレでは消音のための水を流さない」（22.7%）となりました。傾向としては、全体的に昨年より数値が減少。前述の節水実施率の上昇とは裏腹に、各項目の取り組み率は低下する結果となりました。なお、上位5項目の中で唯一、数値が増加した「食器を洗う時は洗い桶に水をためて、水を流しっぱなしにしないようにしている」については、「節水家電（洗濯機・食器洗い機等）を使っている」の数値が昨年からはほぼ横ばいの1割程度（昨年10.4%→今年10.5%）であることから、単純に手洗いの機会減少による結果ということでもなさそうです。



## Q.節水や水の再利用を行う理由は？（13択+その他+理由はない）

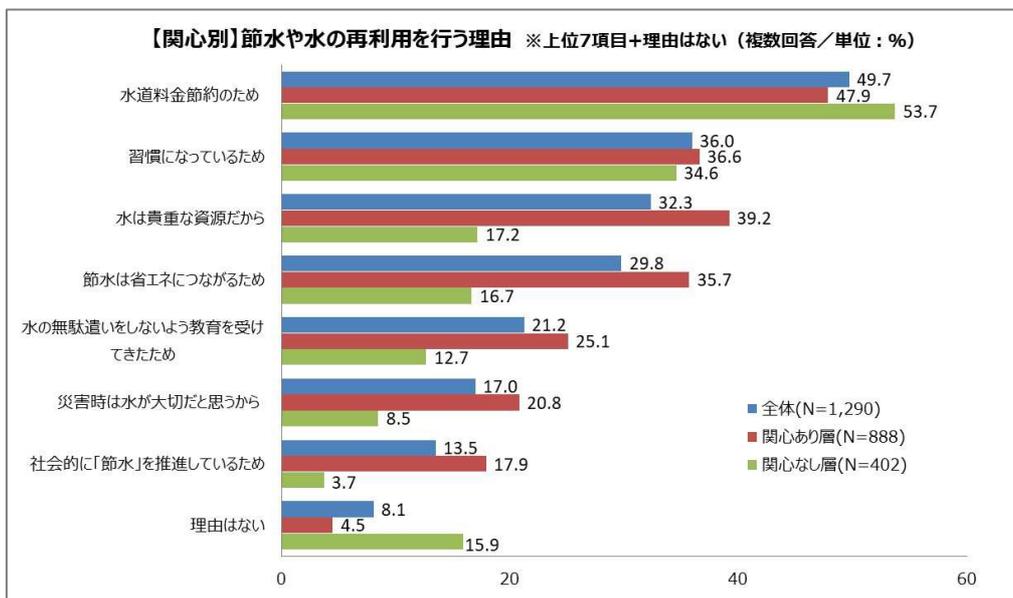
### ◇社会的な大義から、よりパーソナルな方向にシフト？

前述の日常生活で実践していることについての理由を、選択肢を提示してたずねたところ、「水道料金節約のため」が5割近くの回答（49.7%）でトップとなり、2位「習慣になっているため」（36.0%）、3位「水は貴重な資源だから」（32.3%）、4位「節水は省エネにつながるため」（29.8%）、5位「水の無駄遣いをしないよう教育を受けてきたため」（21.2%）、6位「災害時は水が大切だと思うから」（17.0%）、7位「社会的に『節水』を推進しているため」（13.5%）と続きました。各項目の数値を昨年と比べると、「水は貴重な資源だから」「節水は省エネにつながるため」「社会的に『節水』を推進しているため」といった、いわゆる社会的な大義を理由とした項目は大きく減少し、「習慣になっているため」「水の無駄遣いをしないよう教育を受けてきたため」といった、よりパーソナル寄りの理由が増加しました。



### ◇水への関心とは関係なく無意識に節水できている？

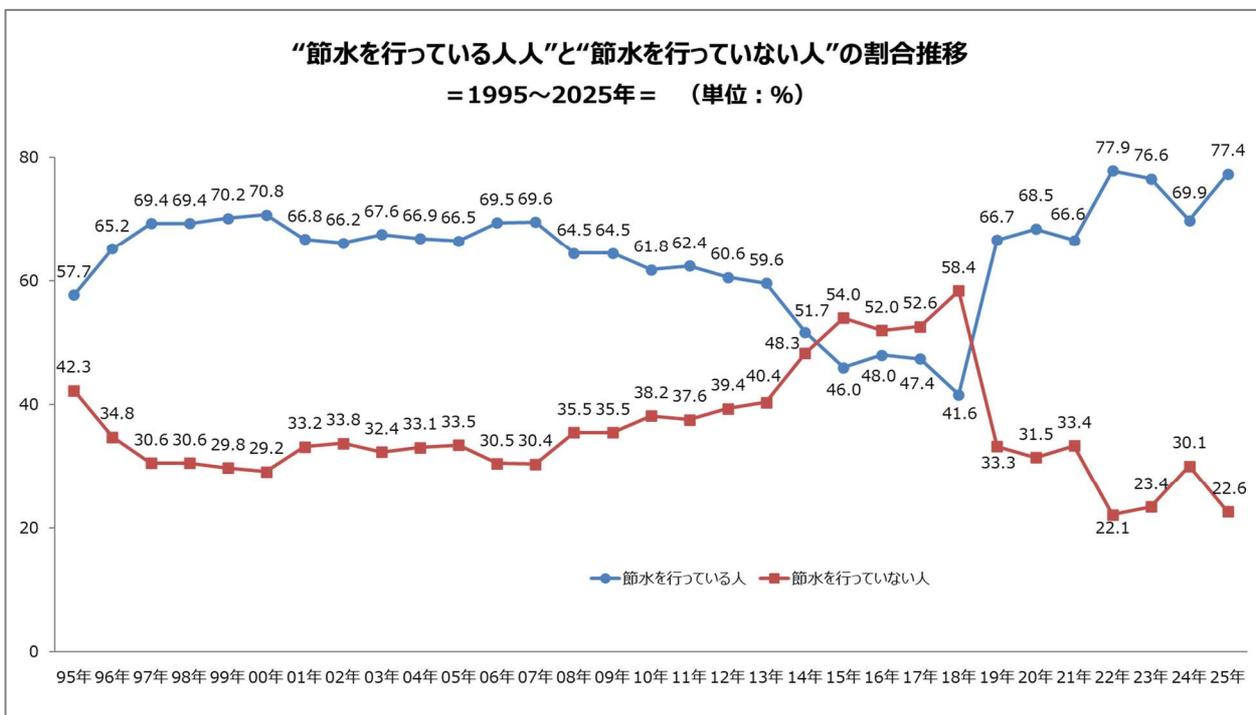
水への関心別に、節水や水の再利用を行う理由をみると、「関心なし層」は、「関心あり層」に比べて全般的に数値が低く、上回っているのは「水道料金節約のため」（関心あり層47.9%、関心なし層53.7%）と「理由はない」（関心あり層4.5%、関心なし層15.9%）のみでした。また、「習慣になっているため」（関心あり層36.6%、関心なし層34.6%）については、あまり大きな差がありませんでした。「水道料金節約のため」の数値の高さは、「水に関心がなくても水道料金が家計に与える影響は気になる」という意識の表れでしょうか。また、「理由はない」や「習慣になっているため」の数値が高いのは、実は無意識に節水できているからなのかもしれません。



【節水行動は増えているのか？】

「あなたは、日常生活において節水を行っていますか？」という問いに対して「行っている」と答えた割合は2019年の66.7%から今年（2025年）は77.4%になり、着実に増えつつあるように見える。しかし、「あなた（またはあなたのご家庭）の水の使い方は？」という問いをしていた1995年から2018年の調査では、「多少節水や再利用しながら水を使っている」や「かなり節水や再利用をしている」という回答の和は2000年の70.8%をピークに2018年には41.6%にまで低下していた。聞き方によって変わったというよりは、選択肢として節水しているかしていないか、と問われると節水しているが、「節水・再利用は気にしながらも、特に何もせず水を使っている」という選択肢があると、そう答える人が多いということだったのかもしれない。ちなみに、2018年に「節水・再利用のことは気にせず、水を使っている」と答えた人は18.7%で、2025年に節水を「行っていない」と答えた人の22.6%に比較的近くなっている。

節水行動を実践する理由として49.7%の人が「水道料金節約のため」と回答し相変わらず1位であるが、「習慣になっているため」が昨年の32.0%から36.0%に増加して4位から2位に上がり、「教育を受けてきたため」が昨年6位18.0%から21.2%で5位に上がり、社会規範として定着しつつある様子がうかがえる。



※1995年～2018年は、「家庭における水の使い方」を問う調査として、「節水・再利用を気にせず水を使っている」「節水・再利用を気にしながらも、特に何もせず水を使っている」「多少節水・再利用しながら水を使っている」「かなり節水・再利用をしている」の4択で実施していたため、上記グラフでは「多少節水・再利用しながら水を使っている」と「かなり節水・再利用をしている」の合計を“節水を行っている人”、“節水・再利用を気にせず水を使っている”と“節水・再利用を気にしながらも、特に何もせず水を使っている”の合計を“節水を行っていない人”としている。